

## 2. 冬季研修会の論点 (テーマ1 保護者負担調査の交流と分析について)

### (1)「保護者負担公費化に向けてのアンケート」集計結果の交流

(保護者負担公費化とりくみアンケート 2012. 12. 16現在 を元に交流)

#### **(公費化の観点を持った配分項目)に関わっての意見交流**

- ・記載がない学校の意見交流 (口頭での説明)
- ⇒石中・・・緑苑台小と似た内容。(奨励プログラム補助金の活用)
- ⇒樽中・・・教科用消耗品費、クラブ用消耗品費の項目を設けている。

#### **(必要なく、公費化が可能な徴収項目)に関わっての意見交流**

- ⇒樽中・・・(理科実験消耗品の額が多いことに関わって) 実験が多いため徴収金額が多い。今後、保護者負担を軽減させることは可能ではないかと考えている。
- ⇒南線小・・・「何となく」公費化できる項目(消耗品)はあるが、継続的に保護者負担を軽減するには、現行の購入数量や人数等詳細に分析が必要と考えている。
- ⇒花中・・・(通知表を入れるファイルに関わって) 通知表を持たせるのに保護者負担にさせるのはどうなのか?との疑問を職員へ投げかけ(学校評価へ記載)。
- ⇒石中・・・事務職員が日常「予算は無い(少ない)」と言いながら、その反面で「保護者が負担している経費の公費化」と言う。教員側から見るとお金がないのになぜ?(公費化)という疑問が生じるのではないかと??

事務職員が率先して公費化の割合を増やす⇔教職員全員で検討して公費化の割合を増やす(公費化の割合を増やす方法論も複数あるのではないかと)

#### **(公費化に切り替えたい、又は公費化割合を増やしたいもの)に関わっての意見交流**

- ⇒花川南小・・・「フラットファイル」は教材費の集金項目その他「150円」の中で購入している。
- ⇒生振小・・・「竹物差し」児童数が少ないため、すべて公費で購入。「クリアファイル、フラットファイル」⇒公費化を目指したいが、難しい面もあるので何か良いアイデアはないだろうか? (学年によって購入枚数(必要枚数)が異なるものもあるのだ)
- ←(八幡小) フラットファイルは誰でもフリーでもっていけるように購入している。(職員が利用したり、クラスで児童が利用したりできるようにストックしている)
- ←(石中) 奨励プログラム補助金で購入している。(奨励プログラム補助金は使いやすい)
- ←(花中) 各学年1回、フラットファイルを購入できる機会を設けている。(1年:炊事学習、2年:上級学校(高校)訪問、3年:修学旅行(環境学習に絡めて))

(生振小へのアイデア交流を通じて)

公費化が可能な部分を事務職員側で指定してしまっても良いのではないかと(1年はこの部分(項目)に関わって〇〇回分公費で措置しますよ…) ⇒ (様々な意見があるため、あえて事務職員側で指定してしまう。)

(中学校では) 教科によっても必要金額が異なることが多い。その違いは必然性があるものととらえて(授業内容が異なるため、当然のことととらえて)、希望があったものは、数年かけてでも必要金額に達するよう順次改善(努力)している。

このページはあえて学校名を書かせてもらいました。⇒議論課程が見えやすいようにと考えたため。

(1)「保護者負担公費化に向けてのアンケート」集計結果の交流

(小学校保護負担の分析調査、中学校理科保護者負担の分析調査、中学校生徒会非保護者負担の分析調査を元に交流)

### **(中学校理科保護者負担の分析調査)に関わっての意見交流**

⇒理科：学校間で実習経費の違いがある。

⇒教科間（理科・家庭科・技術等）でも、実習経費の違いがある。

⇒同じ教科担（中学校では複数の同一教科担が配置）内でも、実習経費（内容）の違いがある。

同じ教科でも学年によって実習（実験）内容が異なるのは当然ではないか（教育課程の違いがあるのでは）。

実習経費の違い・・・「教科担の考え方による違い（「人」による違い）」と「教育課程上による違い」が一緒になって考えてしまっているのではないか。

⇒小学校でのクラブ消耗品の取り扱いを巡って・・・「食べるもの」は市経理で支出できない⇒同じクラブ活動の中でも、あるクラブは実習経費として保護者負担が求められるのに、他のクラブでは一切実習経費等の保護者負担がないのはなぜなのか？

⇒フラットファイルを大量に購入し、市経理で経費を支出しようとしたが、「個人に還元される」ものではないか？という理由で、経理できないこともあった（現在はそれほど規制はないが）。

⇒（上記と同じ考え方で）画用紙も大量に購入できない⇒画用紙を使った作品は、教員が評価するものであるという考え方だと、公費で大量に購入しても良いのではないか？

これまでも議論されてきた点である。この議論は「基準を明確化」することにつながるが、逆に保護者負担を増やしてしまう恐れもある。もう少し議論が必要ではないか？（基準を設定しても常に検討が必要ではないか）

事務職員は授業を「お金」の面から見てしまう。しかし、その授業の成果は教職員全体で行うべきではないか？（経費を多くかけたから授業の成果が出た、あるいは経費を多くかけているのに授業の成果が出ていないのではないか、という判断ではなく、実際の授業の成果はどうだったか？という視点のみで、教職員全体で議論すべきではないか）

⇒（実習経費の違いがあるのはなぜか？）担当教員同士の「議論」が少ないのではないか？（←中学校の教科担は「専門家」なので、専門家同士の議論はやりにくいのではないか？）

⇒実習経費の差があるのは当然である。高いモノに合わせる事が重要ではないか？（教員同士の議論を通じて、「（経費が）高い」人が「（経費が）低く済む」人に説明し、「高い」ことへの理解を求める議論が必要では？）

教員同士の議論を通じて、（お金の）要望が出てくるのが一番望ましいことではないか？（何か良い方法はないか？）（以前はこのような議論を通じて、要望が上がってきたが、なぜ予算がほしいのか言える教員が多かったのでは。）

（教員から要望が上がってくるような雰囲気づくりの実践）

校内の宿泊学習の運営委員として事務職員も入っていたときに宿泊先の議論になった。それまでは料金が安い場所（公共施設）で宿泊していたが、料金が高くなる（民間ホテル）場所での宿泊になる希望が上がった。しかし、事務職員から就学援助制度の話題提供により、これまで同様、料金が安い場所（公共施設）で宿泊することになった。（就学援助制度で支給される宿泊費は上限があることを指摘）

☆事務職員側からの発信で、様々な改善を図ることが可能ではないか？（教員への刺激）

☆他の学校の事務職員も一緒になって、日常的に考えて仕事を進めることが大切では。

(2)「2013学校徴収金(学年教材費・各教科実習費・PTA会費等)実態調査」を活用しての交流

### (資料 明日からの実践のために)に関わっての意見交流

(作成者より)

・「諸費」の決定と「学校配当予算」の決定をリンクさせている。⇒文書として残している(記録化)⇒必ず「理由」を明示する。

・「見る予算書」から「読む予算書」へ

ある教科で保護者が負担する額を減額する提案有。⇒日常的に教員とのコミュニケーション(会話)を通じて得た情報が(教員側からの)減額提案に結びついた。⇒継続的に公費負担についての話題を教員にも提供していく。

### (資料 領域実践シートA校)に関わっての意見交流

(作成者より)

・赴任1年目は、諸費の事務手続き(ゆうちょ)のみ担当していた。

(担当教員(教務)より諸費の集金額の連絡を受けて、集金に関わる事務手続きのみ行う。)

・赴任2年目以降は、

☆決定された集金額が不明確ではないか?

☆学校配当予算の執行に余裕ができた(引き継いだときは、予算が「少ない」と引き継いだら、執行の工夫で余裕ができてきた)

←1年目の疑問や実践により諸費の集金額の決定にも関わるようになった。

・(配当予算執行に関わって)教員より希望があがったときは「なぜ」必要なのか?を(教員へ)問いながら購入を進めている。

### (資料 領域実践シートB校)に関わっての意見交流

(作成者より)

・教員の「お金」に関する意識に差がある(事務⇄教員、保護者⇄教員、教員=自由に使えるお金がないと困るという意識有??)

・保護者負担が必要になる時に(計画する時に)事務職員でも情報を入手し、提案していくようにしている。

### (資料 領域実践シートC校)に関わっての意見交流

(作成者より)

・「奨励プログラム交付金」の使い方についての疑問(交付金の担当者より「お金が余っているけど・・・」という投げかけ)→改善へ向けた努力。

・修学旅行の内容検討(経費検討)→他校との比較を通じて



・教員との会話の中でお金に関する話題提供はできているか?(会話はできているか?)

・(資料の実践内容の交流を通じて)属人的な取組ととらえるのではなく、他校の事務職員も含めて、保護者負担軽減に向けた取組ができれば良いのでは。

### (2013 学校徴収金実態調査)関わっての意見交流

⇒事務職員も諸費の集金に関わり「何かしら」関わっている様子が見えるのでは?

## 2. 冬季研修会の論点 〈テーマ2 「提言2013」見直しについて〉

### ①研究グループ担当 提言2～4の見直し

#### **(提言2 校舎カーテンクリーニングについて) 意見交流**

・(カーテンの) 新規更新も視野に入れては？(カーテンが新しい学校はクリーニング、カーテンが古い学校は更新、・・・学校事情もあるので2本立てが必要ではないか?)

←各学校の現状把握が必要では？

←様々な購入形態が考えられるので難しいのではないかと(PTA 予算、備品扱いでの購入…)

・「手数料」自体を上げてほしいのか？そうではないのか？

←予算自体を上げることは難しいのではないかと

←「ローテーション」でクリーニングを実施してほしいと明言してはどうか？(予算の増額は希望しないでローテーションで実施してほしい)

・(業者依頼の) 校舎の窓ふきは必要なのか？

←おそらく学校から要望が出たため、業者依頼での窓ふき実施(ローテーション実施)となったのではないかと

提言はそのままで。予算要望も活用していく。(各学校から更新希望等も上げてもらう)

#### **(提言3 校舎ワックスかけについて) 意見交流**

・提言内で触れているシルバー人材センターの活用は、実際には難しいのではないかと(専門性を考えるとシルバー人材センターの技術で対応できるのか?)

←シルバー人材センターでは、その作業を実際に経験している人(専門家)が、その作業依頼内容に応じて派遣しているのではないかと

・市庁舎は業者対応で、学校はなぜ教職員任せなのか？(なぜ作業を教職員に求めるのか?)

・市教委(市役所)は、施設の建設のみしか考えておらず、建設後の維持・管理は考えていないのではないかと

提言はそのままで。

#### **(提言4 学校配分予算等の通知方法について) 意見交流**

・市事協事務局の努力で改善しつつあるのではないかと。(ただし、市教委の対応がまちまちであるのではないかと)

・「質問事項」をしっかりと上げて回答をもらうことが必要ではないかと(文書での回答を)

←市事協事務局で質問事項を取りまとめ、要望を実施していく。(年度初めに向けて)(予算・備品に関すること)

提言はそのままで。研究グループから要望があった事項を付け加える。

・(年度当初の予算配分説明会議等に) 配分予算に関わる学校教育課以外の部署(担当)にも参加してもらう。→説明や諸制度の周知を図ってもらう(図書館・教育支援センターも含めて)

・所管備品のあいまいさ(総務?施設?学校教育?)の解消や、施設予算の取り扱いについても、明らかになるようにしてほしい。

## ②調査研修グループ担当 提言5～7の見直し

### (提言5 コンピュータソフト教材購入について) 意見交流

- ・児童に関わるもののみ購入可？（職員の利用が見込まれる一太郎とかはダメ??）
- ・DVDも可？（→PCを使って見るのが可能なので、購入可？）
- ←教委への回答を求めたほうが良いのではないか。
- ←政策的予算なので、基準も曖昧ではないのか？
- ←教委がすべての学校の要望を受け付け、その内容を見て各学校へ予算を配分したほうが良いのではないか（ムダにはならないのではないか？）

提言の修正等は保留。

### (提言6 執行決議書の改善について) 意見交流

- ・（起案年月日から発注予定日までの間を）「2日」空ける根拠は何なのか？（条例・規則には明示されていないのではないか？）
- ←道の規則をモデルにしたのではないか
- ←「見積書」自体は必要ないが、「見積」自体は必要だから、見積期間として「2日」を取っているのではないか？
- ←市事協事務局で取りまとめる年度当初の質問事項に「2日」の根拠は何なのか？を入れて、回答を求めたほうが良いのではないか？

現在の提言内容に以下の点も加える。

- ・学校現場では、授業に使用するため「当日発注・当日納品または翌日納品」ということが現実であり、決裁から発注まで「2日」を待てないのが実態です。このような学校の実態及び決議書作成の効率化という観点から、連携会議としては「同日可」とすべきと考えます。

### (提言7 市教委発公文書の学校配布方法について) 意見交流

- ・（調査研修グループの意見のとおり）提言内容を簡潔にまとめたほうが良いのではないか？
- ・提言として書かれたものは当時を反映した内容である。
- ・学校に不要と思われるデータも一緒にメールで送られてくる実態もある。
- ・（職員の中でも）メールで来た内容すべてをプリントアウトしてほしいという要望もある（紙でないと不安??）

現在の提言内容を簡潔にまとめる。

### ③予算要望グループ担当 提言8～10の見直し

#### (提言8 図書費の執行について) 意見交流

・図書費の決議書は(起案年月日から発注予定日までの間を)1週間ではなく、3～4日でも大丈夫と言われた学校もある。

・将来的には学校で購入希望リストのみ作成し、その後の発注等の事務は図書館で行ってほしいというのを目指すのか?

・現在の提言はそのまま残すが、修正すべき点も多いため、これまでの提言とは別個に提言を作成するのはどうか?

・現在の提言に書かれている「決議書の決裁額の上限を10万円以上に引き上げる方法」はそのまま残して、新たに上記で触れた(学校は購入希望リストの提出のみ)を付け加えてはどうか?

←【10万円を超える発注を可能に】と【購入希望リストの提出】は別個のものではないか?

(一緒の提言の中に盛り込んで良いのか?購入希望リストの提出を目指す希望が多いのか?)

←購入希望リスト提出になると、(学校での事務作業が)かえって制限を伴う恐れはないか?

←10万円を超える発注を可能にするためには、条例等の改正が必要であることを考えると、非常に難しいのではないか?

←司書がいる学校と司書がない学校では図書の購入方法(選定方法)が違ってくるのではないか?

様々な状況変化があるため、現行の提言は修正しないほうが良いのではないか?

#### (提言9 児童生徒氏名印の公費化について) 意見交流

・「(学校配分予算の)配分外での支出を目指すこと」を強調するのか?

・配分外だと一括発注となり、規格等も統一されるのではないか?

・学校の事務作業で利用するものを保護者負担にさせるのはおかしい。

・実際の利用頻度はどうなのか?

←健康診断票の作成時に利用しているのではないか(票自体が教委発注のため)。

・校務支援システムが導入されると氏名印の利用頻度はさらに下がるのではないか?

・大規模小学校で、来年度より氏名印を配当予算で購入する動きがある。

←各(小)学校で、氏名印の公費化を進めても良いのではないか?(大規模でも実施できる見込みが立ったことで)

←小学校だけ苦労するのはどうなのか?(中学校は小学校からの持ち上がりのため)

←提言の中に小学校だけ負担するのはどうなのか?という疑問も入れてはどうか?

←氏名印を公費でまとめて購入する…市教委の経理審査等で(はたして本当に公費で支出するのが必要なのか?)という疑念も生じるのでは?

現段階では提言の見直しは保留←翌年1月(23日)の連携会議で購入状況等を調査の上、検討を進める。

#### (提言10 職業体験学習の生徒旅費の措置について) 意見交流

提言はそのまま。